

区 分 ・ 種 別	史跡		
名 称	かごもりじょうあと 河後森城跡		
所 在 地	北宇和郡松野町大字松丸、富岡地内		
所 有 者	松野町	管理団体	
指定年月日	平成9年9月11日		
解 説	河後森城跡は、松野町中心部を流れる広見川、堀切川、鯛川に囲まれた独立丘陵に位置する、中世・戦国時代の山城である。山の稜線^ば上に馬蹄形^{ていけい}(半円形)に展開し、約20haの範囲^{くるわ}に多数の曲輪が存在する。これまでに本郭、古城、新城の各地区及び谷部の風呂ヶ谷の主要部を発掘調査し、多数の掘立柱建物跡のほか門跡、土塀跡、井戸跡等を確認している。また、堀切や竪堀、土塁等の防御を目的とした遺構も確認するなど遺構の遺存状況が良好である。出土遺物としては、土器、陶磁器他、瓦など15～17世紀前半の遺物が多数出土している。 河後森城跡が位置する伊予と土佐の国境およびその周辺は、黒土郷河原^{はらふちりょう}湊領と呼ばれており、天文後期から永禄期、天正期にかけて、土佐の一条氏、長宗我部氏との度重なる戦闘の舞台となっている。この時、河後森城の城主として各種資料に登場するのが、河原湊教忠^{のりただ}であり、土佐・一条氏の一族から養子として迎えられたと伝わっている。なお、この期間の終わりには河原湊領主は芝氏となるが、土佐からの攻撃は激しさを増し、長宗我部氏の支配が及ぶに至る。 天正13(1585)年、豊臣秀吉による四国討伐が行われ、その後宇和郡は順次小早川氏、戸田氏、藤堂氏、富田氏の所領となる。この間、河後森城にはそれぞれ城代が置かれた。さらに慶長19(1614)年には伊達秀宗が10万石を領して宇和島藩が創立されたが、この時にも付家老であった桑折^{こおり}氏が7千石を領して河後森城に居城したといわれている。		

